

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立永山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長 大川正之＝事務局長、教務部1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、保健環境部主任、主幹教諭(第1学年担当) 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
恵泉女学園大学教授 漆畑 智靖、多摩市立青陵中学校長 相楽敏栄、永山5団地管理組合法人理事長 芥川公夫、多摩市教育委員会 山本勝敏、元本校校長 田中 昭光、PTA会長 堀田 敏、元PTA会長 森久保 麻紀 計7名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年7月2日（金）内部委員8名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和2年12月7日（金）内部委員7名、協議委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和4年3月2日（水）新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ書面開催
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年7月2日（金）内部委員1名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和3年12月7日（金）内部委員1名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和4年2月25日（金）書面で事務局がまとめた評価結果を送付し、委員より書面で御意見を提出いただいた。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケートの実施時期、対象、規模
 - ・ 11月 全校生徒 対象：825人 回収：773人 回収率：93.7%
(前年度95.6%)
 - ・ 11月 保護者 対象：825戸 回収：287戸 回収率：34.8%
(前年度46.6%)
 - ※兄弟等で在籍する生徒についても、便宜上家庭数とせず在籍人数で計算した。
 - ・ 12月 教職員 対象：49人 回収：45人 回収率：91.8%
(前年度100%)
 - ・ 1月 地域住民 対象：245軒 回収：58軒 回収率：23.7%
(前年度14.8%) 対象地域：昨年度まではタウンハウス永山5-30団地
(115軒) だけであったが、今年度はメゾネット永山5団地(130軒)を

加えた245戸に拡大した。

- (3) 主な評価項目：学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全（ライフ・ワーク・バランスの推進）、施設・設備、保護者との連携

(4) 評価結果の概要【学校及び校長への意見・提言の内容】

- ①学力向上に向けた学習指導を推進するとともに、生徒に対して家庭学習時間の確保を指導したり、学校における自主学習環境の充実を通して学習習慣をつけさせる。
- ②生活指導、授業規律遵守の指導を継続し、マナーを身につけさせ、実行させる。
- ③特別活動をより一層活性化させ、生徒の主体性を育む。部活動への加入率を上げ、体力をつけ、将来の厳しい見通しの中でも、何事にも挑戦できる自信をつけさせる。部活動等では、現在の実績に満足するだけでなく、学校外でもさらに認められる実績を作る。
- ④将来の見通しをつけ、自らの進路決定ができるようにするために、組織的に、計画的・系統的な進路指導を展開する。
- ⑤生徒の頑張りや地域での貢献を広報活動でアピールする。そのことで、生徒の自信と帰属意識を高めていく。

(5) 評価結果の分析・考察【学校及び校長への意見・提言】

・学校運営について、

生徒) 設問1では「本校がどのような生徒を育てようとしているか」について、わからないという回答(39%昨年度44%)であった。校長が、さまざまに改革を進めていることについて、生徒への発信強化により少し改善された。

設問3で、「本校は自分を高めてくれる」に対する肯定評価は36%(昨年度35%)、否定的評価が48%(昨年と同率)、不明が14%(昨年度15%)であった。生徒が学校の姿勢を前向きに感じ、生徒自身がより肯定的に自己を高めて行けるような学校環境・風土の醸成にはまだ課題がある。

保護者) 設問2で「学校の情報発信」について肯定的評価が72%(昨年度75%)であるが、自由意見で、「・修学旅行中止について手紙かHPで発信を求める要望・このアンケートがQRコード等からできるようになる要望・もっとHP等を活用して情報を発信して頂きたいという要望」等、情報発信については個別要望が多い。改善すべき課題がと捉えている。

設問5「子女が本校で成長したと思う」に肯定的評価を76%(昨年も同率)頂けたことは有難い。設問6学校が「働き方改革」に取り組んでいる事を知っている。の肯定評価は51%(昨年49%)でわずかに前進した。

・学習指導について、

生徒) 設問6「自分なりの課題や目的をもって日々の授業に臨んでいるか」の肯定的評価は43%(昨年40%)であり、微増。HRや授業等の中で、生徒に対して更なる意識づけが必要。また、1・2年生は定期考査の範囲の発表を早めてほしい旨のコメントが複数があった。設問4「授業を通して、…自分の進歩を実感」の肯定回答50%、設問5「各教科の…学び方が身についた」の肯定回答52%は良好な結果であり更に伸ばすべきである。

教員) 教員は各項目の数値で肯定的であるが、生徒から自由意見でさまざまな批判を受けていることを認識し、改善する心掛けが必要。生徒意見を総合すると「言動の課題」であったり、「対話的でなく生徒との信頼関係に課題」があるコメントが散見される。

・生活指導について

生徒) 「・校則が厳しすぎる(6件)・生徒に精神的苦痛を与えないでほしい。・理由がわからない校則があるから見直した方がいいと思う。・反省文が多すぎる(3件)・生徒指導の際、暴言に当たる言葉等、言葉に気をつけて頂きたいです。・すぐに反省文を書かせ、学校をやめさせると脅してくる先生はやり方が正しいのか考えて欲しい。」このような意見がある。すべてではないとしても、生徒が言っている意見から、教員の人権感覚や、指導の在り方について考えるべきことが多い。

保護者) 生徒指導の場面で、「・一部の先生に人間性を疑いたくなる言動をされる方がおり、子どもに対して悪影響があると思います。感情的になることも理解できますが、教育者として改めて頂きたいと思います。」というコメントがあった。管理職は注意喚起を行う。

・進路指導について

生徒) コメントで、本校の教育課程について大学受験に向けた改善を求める内容がある。
具体的には、大学受験に対応した講座の増、基礎なし理科の科目がより早く履修できるようにしてほしい等。

・特別活動について

・健康・安全について

・保護者との連携について

保護者) 自由意見で、感謝やお褒めの言葉を多数頂いた。「・現場の先生達は、生徒達を思い寄り添って指導して下さっていると思います。・コロナ禍で学校生活・学校行事が制限される中で教職員の皆様のご丁寧な対応に大変感謝しております。生徒達もルールを守りながら高校生活を送っていたことと思います。」このような好循環が期待できるコメントは有難い。

一方で、「・コロナ前からずっと、予定等の決定・連絡が大変遅すぎると思っています。部活動においても同じです。(前日に学校説明会への手伝いを頼まれるなど) 子どもたちが振り回されていると感じております。改善して頂きたい。・スマホ世代の生徒たちなのでオンライン化もどんどん進めて頂ければと思います。」といった要望がある。

進路だよりで、「あと一歩のところまで踏み出せない永高生」に言及されたことを発想の元として、現在社会で活躍している OB,OG の方による講演会の開催を要望された保護者の意見があった。実現にはさまざまなハードルがあるが、建設的な意見に感謝したい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題【学校の自己評価への反映】

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

学校評価アンケートによって、生徒及び保護者や地域、職員が学校の状況をどのように感じて、どのような変化を求めているかを理解することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

昨年度に引き続いて、一部教員の人権意識を欠いた発言や行動について改善を求める意見を頂いていること。

進路指導において、三者面談を全員に対して実施してほしい旨の要望があったこと。このご意見では、3年間を通じて1回も呼ばれていないと記載された。組織的に改善を求められている事項と考えられる。

生徒の大学受験についての可能性を伸ばす教育課程の改善について、引き続き要望があること。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項【学校経営計画への反映】

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

(2) 学習指導

- ・校内の学習環境整備について(校内寺子屋事業の継続、担任団による学力向上部の取組)は、引き続き実践して行く。その上で、平常の授業や模擬試験等の取組が最大限に生徒の学力伸長に結び付くよう、組織的計画的に実践して行く。
- ・令和4年度生からの教育課程では、卒業単位数が77単位に増加する。普段の授業についても45分を正式に採用し、2年生まで週当たり2日だけ7時間授業の日を設ける。新教育課程を実施しつつフィードバックを行って、最適化を考えながら前進して行く。
- ・観点別の学習評価についても「指導と評価の一体化」として実現できるように実践を進めて行く。

(3) 特別活動

- ・部活動の活性化について検討し進めて行く。この所、部活動参加率が低迷してきている。コロナの影響は確実にあるが、入部しても長続きしないような事例がいくつか見られた。

(4) 生活指導

- ・校則や生徒指導についての透明性と人権意識に根付いた適切な指導の推進。毎年、教員の言動や指導内容について看過できない指摘のコメントがあるためこのような事が起らないよう、教員が組織的に指導を行い、生徒にダメージを与えるような言動や指導をなくす。

(5) 進路指導

- ・生徒全員に対する三者面談の実施について推進していく。保護者の意見では、3年間そのような機会がなく不満を表明された方が複数あった。
- ・大学受験への対応度を向上して行く。
- ・不本意な中途退学や転学が発生しないよう、日常から生徒を導いて行く。ユースソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの力を借りつつも、クラス担任や学年が保護者や生徒と十分な信頼関係を構築しながら、生徒や保護者の不本意でない進路変更を勧める場合には、その生徒にとって最も良い方法を共に考え抜いた上で、本人と保護者の意思決定を導く。

(6) 健康・安全

- ・特にメンタルな面での健康について、組織的にアンテナを高く持って実践して行く。問題が起きた時に対応する職員が複数で動けるように組織的な体制を確認して行く。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
2	4	1				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

協議委員に対する校内会議の公開については、未実施であり次年度以降の課題である。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、回収方法や質問紙の扱い(オンライン化)含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、コロナ禍であるが、学校公開の機会を増やしていく。